

狩野川流域
下水道ストックマネジメント計画

計画書
(第2回変更)

令和4年度

静岡県

狩野川流域下水道ストックマネジメント計画

静岡県沼津土木事務所

策定 平成 31 年 3 月

第 1 回変更 令和 3 年 3 月

第 2 回変更 令和 4 年 10 月

① スtockマネジメント実施の基本方針

【状態監視保全】 … 機能発揮上、重要な施設であり、調査により劣化状況の把握が可能である施設を対象とする。

※ 状態監視保全とは、「施設・設備の劣化状況や動作状況の確認を行い、その状態に応じて対策を行う管理方法をいう。

【時間計画保全】 … 機能発揮上、重要な施設であるが、劣化状況の把握が困難な施設を対象とする。

※ 時間計画保全とは、「施設・設備の特性に応じて予め定めた周期（目標耐用年数等）により対策を行う管理方法をいう。

【事後保全】 … 機能上、特に重要でない施設を対象とする。

※ 事後保全とは、「施設・設備の異状の兆候（機能低下等）や故障の発生後に対策を行う管理方法をいう。

備考) スtockマネジメントの実施にあたっての、施設管理区分の設定方針を記載する。

② 施設の管理区分の設定

1) 状態監視保全施設

【管路施設】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
管渠、マンホール、マンホール蓋	5年に1回以上の頻度で点検・調査を実施	緊急度Ⅱで修繕・改築を実施	

【処理場・ポンプ場施設】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
スクリーンかす設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
汚水沈砂設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
汚水ポンプ設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
最初沈殿池設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
反応タンク設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
最終沈殿池設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
消毒設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	
揚水設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度 2.0 以下で改築を実施	

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
放流ポンプ設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
汚泥輸送・前処理設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
汚泥濃縮設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
汚泥洗浄タンク設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
汚泥貯留設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
調質設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
汚泥脱水設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
ゲート設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
脱臭設備	点検は日常的に実施 定期点検は機器に応じた頻度で実施 調査は5年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
躯体	点検は日常的に実施 調査は10年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	
付帯設備 (内部防食)	点検は日常的に実施 定期点検は1年に1回、5年に1回の頻度で実施 調査は10年に1回の頻度で実施	健全度2.0以下で改築を実施	

2) 時間計画保全施設

【管路施設】

施設名称	目標耐用年数	備考
-	-	-

【処理場・ポンプ場施設】

施設名称	目標耐用年数	備考
受変電設備	標準耐用年数の 1.7 倍	
自家発電設備	標準耐用年数の 1.7 倍	
制御電源及び計装用電源設備	標準耐用年数の 1.7 倍	
負荷設備	標準耐用年数の 1.7 倍	
監視制御設備	標準耐用年数の 1.7 倍	
防水	標準耐用年数の 1.7 倍	
消火災害防止設備	標準耐用年数の 1.7 倍	
電気設備	標準耐用年数の 1.7 倍	

備考) 施設名称を「下水道施設の改築について(平成 28 年 4 月 1 日 国水下水第 109 号 下水道事業課長通知)」の別表に基づき記載する場合にあっては、大分類、中分類、小分類のいずれかで記載してもよい。

3) 主要な施設の管理区分を事後保全とする場合の理由

【管渠施設】 管きよ	…	該当なし
【汚水・雨水ポンプ施設】 ポンプ本体	…	該当なし
【水処理施設】 送風機本体もしくは 機械式エアレーション装置	…	該当なし
【汚泥処理施設】 汚泥脱水機	…	該当なし

③ 改築実施計画

1) 計画期間

令和 元 年度	～	令和 5 年度
---------	---	---------

2) 個別施設の改築計画

I 東部処理区

【管路施設】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理区・排水区 の名称	合流・ 汚水	対象施設	布設 年度	供用 年数	対象箇所 (箇所)	概算 費用 (百万円)	備考
東部処理区	汚水	マンホール蓋	S60～H11	22～36	11 箇所	11	①腐食
—	—	—	—	—	—	—	—
合計						11	

【処理場・ポンプ場施設】 ※貯留施設を含む

i 終末処理場

(1) 処理場・ポンプ場等の名称：狩野川東部浄化センター

(2) 合流・汚水・雨水の別：汚水

		(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置 年度	供用 年数	施設能力	概算 費用 (百万円)	備考
機械	沈砂池ポンプ棟	No. 1 汚水ポンプ	1984	36	立軸渦巻 斜流ポンプ	45.9	
		No. 2 汚水ポンプ	1984	36	立軸渦巻 斜流ポンプ	51.0	
		No. 1 汚水ポンプ用モータ	1984	36	立軸全閉防 まつ形	10.2	
		No. 2 汚水ポンプ用モータ	1984	36	立軸全閉防 まつ形	13.6	
	水処理棟	No3 送風機	1987	33	単段増速 ブロー	28.5	
		No3 送風機用電動機	1987	33	横軸巻線形	19.4	
		No3 送風機用吐出弁	1987	33	電動外ねじ仕 切弁	2.1	
		No3 送風機用放風弁	1987	33	電油操作式ハタ フライ弁	11.1	
		No3 送風機用逆止弁	1987	33	スイング式逆止弁	2.6	
	機械	水処理棟	No1 冷却水ポンプ	1987	33	水中ポンプ (着脱式)	1.8

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
	機械濃縮棟	No. 1 遠心濃縮機	1998	22	横型連続遠心濃縮機	425.0	
	重力濃縮棟	No.2 重力濃縮槽一式	1993	27		85.0	
	汚泥処理	No. 1 遠心脱水機	2002	18	高効率形横形連続遠心脱水機	323.0	
		No. 1 ケーキ貯留ホッパー	1985	35	電動カッター式	51.0	
	水処理棟	No. 2-1 エアレーションタンク散気装置	1997	23	簡易吊上式散気板	32.5	
		No. 2-2 エアレーションタンク散気装置	2001	19	簡易吊上式散気板	25.7	
		No. 1-3 余剰汚泥ポンプ	1983	37	無閉塞型汚泥ポンプ	21.0	
		No. 1-3 返送汚泥ポンプ	1983	37	吸込スクレーパー付汚泥ポンプ	26.1	
		No. 1-4 返送汚泥ポンプ	1983	37	吸込スクレーパー付汚泥ポンプ	26.1	
	汚泥処理棟	No. 3 加圧ろ過機系	1991	29	加圧脱水機補機類	25.0	
		No. 1 ケーキ搬送コンベア	1991	29	3ローラー 20° トラフ型	5.0	
		No. 1, 2 消石灰サイロ	1988	32	上部円筒下部円錐形	3.0	
		No. 1, 2 消石灰 2 次ホッパー	1988	32	上部円筒下部円錐形	1.9	
	機械濃縮棟	No. 2 遠心濃縮機系	1998	22	横型連続遠心補機類	255.0	
	電気	沈砂池ポンプ棟	汚水ポンプ 井水位計	1984	36		3.6
水処理棟		1系初沈 pH 計	1984	36	ガラス電極式 浸漬形洗浄装置付	1.5	
消毒棟		残留塩素濃度計	1985	35		6.6	
電気	水処理棟	1-4 エアタンク風量計	1985	35	超音波式, 2 測線	5.6	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
	重力濃縮棟	濃縮汚泥流量計 FTD01	1985	35		2.7	
	汚泥処理棟	No1 汚泥貯留槽 レベル計	1985	35		0.4	
		No2 汚泥貯留槽 レベル計	1985	35		0.4	
	水処理棟	No1-1/2 返送汚泥 濃度計	1989	31		2.1	
	水処理棟	1-2 エアタンク風量計 AA04-2	1989	31		1.0	
	汚泥処理棟	ホリ鉄貯留タンクレベル計 LDE301	1993	27		5.4	
	水処理棟	No. 5 送風機吸込 風量計	1997	23	超音波式	4.6	
		沈砂池ポンプ送風機計装 変換機盤 4M01	1984	36		12.5	
		送風機設備補助継電気盤 (2) 4BK02	1987	33		10.3	
		No3 送風機盤 4H36	1987	33		6.0	
		No3 送風機吸込風量計 BA03	1987	33		7.3	
		No3 送風機現場操作盤 4BE03	1987	33		2.7	
		冷却水ポンプ 現場操作盤 4BW11	1987	33		2.0	
		返送_余剰汚泥 ポンプ_流調弁現場 操作盤(5FE131)	1985	35	屋内自立形	3.6	
		1-3/5 初沈汚泥掻寄機現 場操作盤 5PS102	1984	36		3.2	
		1-4/5 終沈汚泥掻寄機現 場操作盤 5FS102	1984	36		3.2	
		1 系終沈汚泥引抜弁現場 操作盤 5FS121	1984	36		3.2	
電気		水処理棟	1 系初沈汚泥引抜弁現場 操作盤 5PS121	1984	36		3.2

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
		1系生汚泥ポンプ現場操作盤 5PS22	1984	36		3.2	
		洗砂消泡水ポンプ現場操作盤 5FP141	1984	36		3.2	
		1-3 曝気風量調節弁現場操作盤 (5AS102)	1987	33	屋内スクリーン形	2.0	
		2-1 返送汚泥ポンプ制御盤 (5FA201)	1997	23	屋内閉鎖自立形	1.5	
		2-2 返送汚泥ポンプ制御盤 (5FA202)	1997	23	屋内閉鎖自立形	1.5	
		1-3_4 初沈スクリーン現場操作盤 (5PS112)	1984	36	屋内スクリーン形	1.4	
		1-4_5 終沈汚泥掻寄機現場操作盤 (5FS102)	1984	36	屋内スクリーン形	1.4	
		1-4 終沈スクリーン現場操作盤 (5FS112)	1984	36	屋内スクリーン形	1.4	
		1-4 曝気風量調節弁現場操作盤 (5AS101)	1984	36	屋内スクリーン形	1.4	
		洗砂消泡水ポンプ現場操作盤 (5FP141)	1984	36	屋内スクリーン形	1.4	
		接地端子箱 2	1984	36		1.0	
		管廊作業用電源箱 5FW52	1984	36		0.1	
		管廊作業用電源箱 5FW53	1984	36		0.1	
		池上作業用電源箱 5FW54	1984	36		0.1	
		池上作業用電源箱 5FW55	1984	36		0.1	
		池上作業用電源箱 5FW56	1984	36		0.1	
		水処理設備引込盤 5C101	1984	36		11.8	
電気	水処理棟	水処理コントロールセンター 5C102-5C106	1984	36		76.2	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
		水処理補助継電器盤 (1)(2)5KI01	1984	36		33.3	
		ゲートウェイ(5R210)	1997	23	屋内閉鎖 自立形	45.4	
		No1/2 返送汚泥 ポンプ制御盤 5FL102	1989	31		9.7	
	消毒棟	消毒タンク設備作業用電源 箱 8W31	1984	36		0.1	
	管理本館	中央監視盤 (汚水ポンプ) (3M03)	1985	35	屋内自立形	0.2	
	汚泥処理棟	汚泥脱水設備 補助継電器盤 (1)/(3)7DK11/31	1985	35		6.6	
		汚泥脱水設備 コントロールセンタ(1) 7DC102-105	1988	32		4.3	
		汚泥脱水設備(1) 引込盤 7DC101	1985	35		4.3	
		汚泥脱水設備(2) 引込盤 7DC201	1985	35		4.3	
		汚泥脱水設備(3) 引込盤 7DC301	1985	35		4.3	
		中継端子盤 9T01	1985	35		3.1	
		汚泥脱水設備 コントロールセンタ(2) 7DC202-205	1988	32		2.5	
		汚泥脱水設備 コントロールセンタ(3) 7DC302-304	1988	32		2.1	
		吸引ファン操作盤	1988	32		2.1	
		汚泥棟井水受水弁現場操 作盤 7S13	1985	35		1.3	
排水移送攪拌 ポンプ 現場操作盤 7E111		1988	32		0.8		
汚泥脱水設備 作業用電源盤 (1)7W411		1988	32		0.5		
電気	汚泥処理棟	汚泥脱水設備 作業用電源盤 (2)7W412	1988	32		0.5	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考	
		汚泥脱水設備 作業用電源盤 (3)7W413	1988	32		0.5		
		汚泥脱水設備 作業用電源盤 (4)7W421	1988	32		0.5		
		汚泥脱水設備 作業用電源盤 (5)7W422	1988	32		0.5		
		No1/2 高架水槽 揚水ポンプ 現場操作盤 7S11	1985	35		0.3		
	汚泥処理棟	No1-3 ケーキ移送 コンパヤ現場操作盤 7S103	1985	35		0.3		
		本館連絡管廊床 排水ポンプ 現場操作盤 (7SW202)	1985	35	屋内スタンド形	0.2		
		No1 汚泥棟地下床 排水ポンプ 現場操作盤 7W104	1985	35		0.2		
		No2 汚泥棟地下床 排水ポンプ 現場操作盤 7W105	1985	35		0.2		
		No3 汚泥棟地下床 排水ポンプ 現場操作盤 7W106	1985	35		0.2		
		No1 ケーキ貯留ホッパ 現場操作盤 7W103	1985	35		0.1		
		監視制御装置盤 (7R21)	1998	22	屋内自立形	9.2		
		汚泥薬注設備 コントロールセンタ 7YC105	1993	27		42.5		
	沈砂池ポンプ棟	No. 1 汚水ポンプ 現場操作盤 (40E01)	1985	35		0.6		
		No. 2 汚水ポンプ 現場操作盤 (40E02)	1985	35		0.6		
		汚水ポンプ 設備 コントロールセンタ (40C01_04)	1985	35	屋内閉鎖 自立形	12.2		
		汚水ポンプ 設備 コントロールセンタ (40C05)	1987	33	屋内閉鎖 自立形	9.5		
		No. 1_2 汚水ポンプ 制御盤 開閉器盤 (40L101_2)	1985	35	屋内閉鎖 自立形	8.2		
	電気	沈砂池ポンプ棟	汚水ポンプ 補助継 電器盤(1) (40K01)	1985	35		7.6	

		(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
		汚水ポンプ補助継電器盤(2) 40K02)	1987	33		1.0	
	汚泥処理棟	汚泥脱水設備(4)コントロールセンタ 7DC401/4	2000	20	屋内閉鎖自立型	10.0	
		汚泥脱水設備補助継電器盤(5) (6) 7DK61/71	2000	20	屋内閉鎖自立型	16.0	
		汚泥薬注設備補助継電器盤(1) (2) 7DK41/42	1984	36	屋内閉鎖自立型	16.0	
		汚泥薬注設備補助継電器盤(3) 7DK43	1993	27	屋内閉鎖自立型	16.0	
		汚泥脱水設備補助継電器盤(4) 7DK51	2000	20	屋内閉鎖自立型	16.0	
		汚泥投入ポンプ現場操作盤(7E301)	2000	20	屋内スタンド型	2.0	
		薬品供給ポンプ現場操作盤(7E303)	2000	20	屋内スタンド型	2.0	
		No. 1-13 ケーギ搬送コンベヤ・破碎機現場操作盤 7W112	1991	29	屋内スタンド型	2.0	
		2系水処理設備(1) コントロールセンタ 5C201/4	1996	24	屋内閉鎖自立型	8.8	
		2系水処理設備(1) 補助継電器盤 5K201/2	1996	24	屋内閉鎖自立型	11.0	
		汚泥脱水設備コントロールセンタ(3) 7DC305	1991	29	屋内閉鎖自立型	10.0	
		汚泥薬注設備コントロールセンタ 7YC101~104	1987	33	屋内閉鎖自立型	16.0	
		送風機棟	送風機設備コントロールセンタ 4BC06	1991	29	屋内閉鎖自立型	5.0
	送風機設備コントロールセンタ 4BC07		1991	29	屋内閉鎖自立型	5.0	
	送風機設備補助継電器(3) 盤 4BK03		1991	29	屋内閉鎖自立型	9.0	
	送風機設備補助継電器(4) 盤 4BK04		1996	24	屋内閉鎖自立型	5.7	
電気	水処理棟	生汚泥濃度計	2001	19	超音波式	6.0	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
		余剰汚泥流量計	2003	17	電磁式	5.0	
		1-8 終沈汚泥界面計	2002	18	超音波式	7.0	
	機械濃縮棟	No. 2 遠心濃縮機系	1988	22		20.0	
土木	沈砂池ポンプ棟	内部防食_沈砂池 機械棟_1F_ 流入水路	1980	40		13.4	
		内部防食_沈砂池 機械棟_B2F_No1 沈砂池	2005	15		22.5	
		内部防食_沈砂池 機械棟_B2F_No2 沈砂池	2005	15		22.5	
	水処理棟	内部防食_初沈 流入水路部_2_1	2011	9		19.1	
		内部防食_初沈 流入水路部_2_2	2011	9		19.1	
	管廊	内部防食_分配槽_RF_No1 水路内部	2006	14		9.9	
内部防食_分配槽_RF_No2 水路内部		1995	25		9.9		
建築	水処理棟	外装(屋根)(アスファルト防水保護 コンクリート)(2系水処理施設_RF_ 屋根)	1996	24		88.4	
	沈砂池ポンプ棟	外装(屋根)(アスファルト防水保護 コンクリート)(沈砂池ポンプ棟_1F 屋根)	1983	37		14.1	
		外装(屋根)(シート防水)(沈砂 池ポンプ棟_2F 屋根)	1983	37		14.0	
	汚泥処理棟	屋根防水(アスファルト防水(保護コ ンクリート))(汚泥処理棟(既設))	1982	38		26.6	
	重力濃縮棟	屋根防水(アスファルト防水(保護コ ンクリート))(汚泥濃縮タンク棟)	1982	38		11.5	
	機械濃縮棟	屋根防水(アスファルト防水(保護コ ンクリート))(機械濃縮棟)	1997	23		10.1	
	水処理棟	外装(屋根)(アスファルト防水保護 コンクリート)(1系水処理施設_RF_ 屋根)	1984	36		89.0	
狩野川東部浄化センター (小計)						2,468.9	
東部処理区 (合計)						2,479.9	

II 西部処理区

【管路施設】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理区・排水区の名称	合流・汚水	対象施設	布設年度	供用年数	対象箇所(箇所)	概算費用(百万円)	備考
西部処理区	汚水	管きよ No. 25 マンホール	H6～H8	24～28	630m	460.0	①腐食
西部処理区	汚水	マンホール蓋	H5～H16	18～29	51 箇所	51.0	
合計						511.0	

【処理場・ポンプ場施設】 ※貯留施設を含む

i 終末処理場

(1) 処理場・ポンプ場等の名称：狩野川西部浄化センター

(2) 合流・汚水雨水の別：汚水

(3)		(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用(百万円)	備考
機械	水処理棟	No. 5 終沈汚泥掻き寄せ機	1999	21	チェンフライト式 (2池1駆動)	15.1	
		No. 5 初沈汚泥掻き寄せ機	1999	21	チェンフライト式 (2池1駆動)	107.1	
		No. 5 初沈スクラムスキマ	1999	21	電動パ [°] イフ [°] スキマ (2池1駆動)	8.5	
		No. 5 終沈スクラムスキマ	1999	21	電動パ [°] イフ [°] スキマ (2池1駆動)	8.5	
		No. 1-5 池散気装置	1999	21	全面曝気散気装置	61.2	
		No. 1-6 池散気装置	1999	21	全面曝気散気装置	61.2	
		No. 4 返送汚泥ポン [°]	1999	21	横軸吸込スクリュ [°] 付渦巻ポン [°]	10.0	
		No. 5 返送汚泥ポン [°]	1999	21	横軸吸込スクリュ [°] 付渦巻ポン [°]	10.0	
	汚泥処理棟	No. 1 ケーキホッパ [°]	1993	27	電動カットゲ [°] ート式	23.1	
		No. 2 ケーキホッパ [°]	2006	14	角型電動カットゲ [°] ート式	23.1	
No. 1 薬品供給機		1993	27	可変連続定量式	7.3		

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
機械	汚泥処理棟	No. 2 薬品供給機	1994	26	可変連続 定量式	7.3	
		No. 1 薬品溶解タンク	1993	27	立形攪拌槽(攪拌機、空気作動ゲイブラムを含む)	20.6	
		No. 2 薬品溶解タンク	1994	26	立形攪拌槽(攪拌機、空気作動ゲイブラムを含む)	20.6	
	水処理棟	No. 6 終沈汚泥掻き寄せ機	2001	19	チェーンフライト式 (2池1駆動)	15.1	
		No. 6 初沈汚泥掻き寄せ機	2001	19	チェーンフライト式 (2池1駆動)	107.1	
		No. 6 初沈スクラムスキマ	2001	19	電動ハイスキマ (2池1駆動)	8.5	
		No. 1-7 池散気装置	2001	19	全面曝気 散気装置	49.3	
		No. 1-8 池散気装置	2001	19	全面曝気 散気装置	49.3	
		No. 6 返送汚泥ポンプ	2001	19	横軸吸込スクュー 付渦巻ポンプ	13.4	
	沈砂池ポンプ棟	No. 1 汚水ポンプ	1993	27	立軸渦巻斜流 ポンプ (VVVF制御)	51.0	
		No. 2 汚水ポンプ	1993	27	立軸渦巻斜流 ポンプ (VVVF制御)	51.0	
		No. 1 汚水ポンプ用電動機	1993	27	立軸保護防滴 自由通風形(巻線形)	15.8	
		No. 2 汚水ポンプ用電動機	1993	27	立軸保護防滴 自由通風形(巻線形)	15.8	
	送風機棟	1号送風機	1992	28	単段増速 ブロー	34.0	
	水処理棟	1系 No. 1 初沈汚泥かき寄せ機	1992	28	—	56.1	
		2系 No. 1-2 初沈汚泥掻き寄せ機	2006	18	屋外スタント形	91.8	
		2系 No. 3 初沈汚泥掻き寄せ機	2009	11	チェーンフライト式	54.4	
		2系 No. 4 初沈汚泥掻き寄せ機	2009	11	チェーンフライト式	20.2	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考	
機械	機械濃縮棟	No. 1 余剰汚泥貯留槽攪拌機	1999	21	立形低速攪拌機	13.3		
		汚泥濃縮機棟脱臭ファン	1999	21	片吸込ターボファン	3.9		
		機械濃縮棟シール水給水ユニット	1999	21	—	22.6		
		機械濃縮棟雑用水給水ユニット	1999	21	—	21.4		
		余剰汚泥破砕機	1999	21	二軸作動式	5.6		
	汚泥処理棟	脱臭ファン	1993	27	FRP製ターボファン	5.3		
		No. 1 濃縮汚泥混合槽引抜ポンプ	2006	14	—	1.1		
		No. 2 濃縮汚泥混合槽引抜ポンプ	2006	14	—	1.1		
		No. 1 濃縮汚泥混合槽攪拌機	2006	14	—	3.4		
	重力濃縮棟	重力濃縮しき除去装置	2007	13	回転スクリーン式	9.4		
	沈砂池ポンプ棟	No. 2-1 沈砂分離機	2006	14	分離槽付スクリーンコンベヤ	35.0		
	電気	管理棟	管理棟入出力盤	1991	29	屋内閉鎖自立形	24.0	
		沈砂池ポンプ棟	No. 1 主流入ゲート現場操作盤	1992	28	屋外スタンド形	4.0	
			スリッホイス現場操作盤	1992	28	屋内スタンド形	4.0	
汚泥処理棟		計装用空気圧縮機現場操作盤(汚泥処理棟)	1992	28	屋内スタンド形	3.0		
水処理棟		水処理1系補助継電器盤(1)_(3)	1992	28	—	57.0		
		No. 5 初沈汚泥掻寄機現場操作盤(1系)	1998	22	屋外スタンド形	5.0		
		No. 5 初沈スクラムスクマ現場操作盤(1系)	1998	22	屋外スタンド形	5.0		

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	水処理棟	1系-No.5 アタクD0計	2003	17	隔膜ホーローグラフ方式	7.0	
		1系-No.6 アタクD0計	1998	22	浸漬形ホーローグラフ式	7.0	
		1系-No.8 アタクD0計	2002	18	隔膜ホーローグラフ方式	7.0	
		1系-No.3 アタクD0	2002	18	隔膜ホーローグラフ方式	7.0	
		1系-No.4 アタクD0	2002	18	隔膜ホーローグラフ方式	7.0	
		1系No.5 アタクMLSS計	2003	17	散乱光式	7.0	
		1系No.8 アタクMLSS計	2002	18	散乱光式	7.0	
		1系-No.3 アタクMLSS	2002	18	—	7.0	
		1系-No.4 アタクMLSS	2002	18	—	7.0	
	消毒棟	放流UV(COD)計	2002	18	アルカリ性過マンガン酸カリウム法	11.0	
	砂ろ過棟	洗浄用空気圧縮機現場操作盤	1995	25	屋内スタンド形	4.0	
	場外	沼川水位計 (放流河川水位計)	2003	17	超音波式	4.0	
	水処理棟	No.4_5返送汚泥ポンプ盤(1系)	1998	22	屋内閉鎖自立形	9.0	
		水処理1系コントローラ(1)(2)	1991	29	—	90.0	
		用水_滅菌コントローラ(1)(2)	1991	29	屋内閉鎖自立形	72.0	
		水処理1系コントローラ(3)	1991	29	—	45.0	
	機械濃縮棟	濃縮汚泥濃度計(機械濃縮棟)	1998	22	マイクロ波位相差測定方式	22.0	
		遠心濃縮機設備コントローラ(1)(2)盤	1998	22	屋内閉鎖自立形	54.0	

		(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	汚泥処理棟	重力濃縮_脱水(1)コントロールセンタ	1992	28	屋内閉鎖自立形	36.0	
	汚泥処理棟	重力濃縮_脱水コントローラ(1)_ (3)	1992	28	屋内閉鎖自立形	81.0	
		No. 1_2 薬品溶解タンク現場操作盤	1992	28	屋内自立形	5.0	
		重力濃縮_脱水補助継電器盤(1)_ (4)	1992	28	屋内閉鎖自立形	76.0	
		重力濃縮_脱水補助継電器盤(5) (6)	1993	27	屋内閉鎖自立形	57.0	
	水処理棟	水処理棟計装盤	2003	17	屋内閉鎖自立形	13.0	
		No. 6 返送汚泥ポンプ盤(1系)	2000	20	—	9.0	
		No. 6 初沈汚泥掻寄機現場操作盤(1系)	2000	20	屋外スタンド形	5.0	
		No. 6 初沈スクラムスクマ現場操作盤(1系)	2000	20	屋外スタンド形	5.0	
		No. 2 返送汚泥濃度計(1系)	1998	22	超音波減衰式	8.0	
	沈砂池ポンプ棟	No. 1 主ポンプ盤	1992	28	屋内閉鎖自立形	15.9	
		No. 2 主ポンプ盤	1992	28	屋内閉鎖自立形	15.9	
		直流電源装置(沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	39.4	
		汚水ポンプ1系補機コントロールセンタ	1992	28	屋内閉鎖自立形	15.9	
		主ポンプ補助継電器盤(1)_ (2)	1992	28	屋内閉鎖自立形	34.8	
		No. 1_2 主ポンプ現場操作盤	1992	28	屋内自立形	3.3	
	送風機棟	直流電源装置(送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖自立形	34.1	
	水処理棟	2系 No. 1-2 初沈汚泥掻寄機現場操作盤	2005	15	屋外スタンド形	1.4	

		(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電氣	水処理棟	2系 No. 3_4 初沈汚泥掻寄機 現場操作盤	2008	12	屋外ｽﾀﾝﾄﾞ形	1.6	
	機械濃縮棟	引込(1)盤 (機械濃縮棟)	1998	22	屋内閉鎖 自立形	6.4	
		引込(2)盤 (機械濃縮棟)	1998	22	屋内閉鎖 自立形	6.4	
		動力変圧器(1)盤 (機械濃縮棟)	1998	22	屋内閉鎖 自立形	8.6	
		動力主幹盤 (機械濃縮棟)	1998	22	屋内閉鎖 自立形	6.6	
		動力変圧器 (1)(2)1次盤 (機械濃縮棟)	1998	22	屋内閉鎖 自立形	5.8	
	汚泥処理棟	引込盤(1) (汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	6.0	
		引込盤(2) (汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	6.0	
		照明変圧器1次_動力変圧器 (1)1次盤(汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	6.3	
		照明主幹盤 (汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	4.8	
		動力変圧器盤(1) (汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	7.5	
		出力分岐盤 (汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	1.9	
		動力主幹盤(1) (汚泥処理棟)	1992	28	屋内閉鎖 自立形	6.1	
	管理棟	引込盤(1) (管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	3.6	
		引込盤(2) (管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	3.6	
		動力変圧器 1次_照明変圧器 1次盤(管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	4.5	
		照明主幹盤 (管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	3.9	
		動力変圧器盤 (管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	3.4	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	管理棟	出力分岐盤 (管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	1.5	
		制御電源盤(2)	2004	16	屋内閉鎖 自立形	0.4	
		動力主幹盤 (管理棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	2.1	
	場内	PAS1	1991	29	耐重塩じん形, 方向性 SOG 制 御装置付	0.6	
		PAS 予備	1991	29	耐重塩じん形, 方向性 SOG 制 御装置付	0.6	
	送風機棟	引込盤(1) (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	2.5	
		引込盤(2) (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	2.5	
		汚泥棟き電(2)盤	1995	25	屋内閉鎖 自立形	7.5	
		管理棟き電(1)_ 動力変圧器(1) 1次盤	1991	29	屋内閉鎖 自立形	4.9	
		機械濃縮棟 き電(1)盤	1991	29	屋内閉鎖 自立形	3.6	
		機械濃縮棟 き電(2)_動力変圧器(2) 1 次盤	1995	25	屋内閉鎖 自立形	6.1	
		自家発引込盤	1995	25	屋内閉鎖 自立形	6.0	
		受電盤(1) (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	4.3	
		焼却棟 き電盤(1)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	13.7	
		沈砂池ホップ棟 き電_照明変圧器 1次盤	1991	29	屋内閉鎖 自立形	4.8	
		電源切換盤 (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	2.4	
	母線連絡_管理棟き電盤	1991	29	屋内閉鎖 自立形	5.2		
照明主幹盤 (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖 自立形	3.4			

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	送風機棟	動力変圧器盤(1) (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖自立形	6.2	
		動力変圧器盤(2) (送風機棟)	1995	25	屋内閉鎖自立形	10.5	
		No.1 コンテンサ盤	2000	20	屋内閉鎖自立形	4.9	
		No.2 コンテンサ盤	1991	29	屋内閉鎖自立形	3.4	
		No.3 コンテンサ盤	1991	29	屋内閉鎖自立形	3.6	
		動力主幹盤(1) (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖自立形	4.7	
		動力主幹盤(2) (送風機棟)	1991	29	屋内閉鎖自立形	14.5	
	沈砂池ポンプ棟	引込盤(1) (沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	12.3	
		引込盤(2) (沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	12.3	
		照明変圧器1次盤(沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	13.0	
		動力変圧器(1) 1次_予備盤 (沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	26.1	
		動力変圧器(2) 1次盤 (沈砂池ポンプ棟)	2004	16	屋内閉鎖自立形	5.8	
		母線連絡盤 (沈砂池ポンプ棟)	2004	16	屋内閉鎖自立形	4.6	
		照明主幹盤 (沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	21.7	
		動力変圧器盤(1) (沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	43.4	
		動力変圧器盤(2) (沈砂池ポンプ棟)	2004	16	屋内閉鎖自立形	6.6	
		動力主幹盤(1) (沈砂池ポンプ棟)	1992	28	屋内閉鎖自立形	21.7	
		動力主幹盤(2) (沈砂池ポンプ棟)	2004	16	屋内閉鎖自立形	5.3	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	自家発電機棟	No.1 ガスタービン 発電装置 (1250kVA)	1995	25	三相同期発電機 /ガスタービン	148.9	
	自家発電機棟	No.1 発電機盤	1995	25	屋内閉鎖自立形	8.4	
		No.1 自動始動盤	1995	25	屋内閉鎖自立形	8.4	
		No.1 給気ファン	1995	25	多翼遠心ファン床置形	4.9	
		No.1 換気ファン	1995	25	多翼遠心ファン床置形	5.9	
		No.1 排気消音器 (1次_2次)	1995	25	据置形	12.8	
		No.1 燃料移送ポンプ	1995	25	歯車式 (安全増防爆形)	0.5	
		No.2 燃料移送ポンプ	1995	25	歯車式 (安全増防爆形)	0.5	
	汚泥処理棟	脱臭ファン 現場操作盤 (汚泥処理棟)	1992	28	屋内スタンド形	0.6	
		No.1_2 濃縮余剰汚泥引抜ポンプ 現場操作盤	2005	15		1.0	
		No.1 濃縮余剰汚泥引抜ポンプ VVVF 盤	2005	15		6.3	
		No.2 濃縮余剰汚泥引抜ポンプ VVVF 盤	2005	15		6.3	
		汚泥棟 No.1 濃縮余剰汚泥 攪拌機現場操作盤	2005	15		0.8	
	機械濃縮棟	余剰汚泥貯留槽 現場操作盤	1998	22	屋内スタンド形	1.2	
		脱臭ファン 現場操作盤	1998	22	屋内壁掛形	0.7	
	水処理棟	No.5 終沈スクラム現場操作盤 (1系)	1998	22		1.5	
	沈砂池ポンプ棟	No.2-1 沈砂分離機現場操作盤	2006	14	屋内スタンド型	0.6	
土木	水処理棟	内部防食 (水処理棟_1系 初沈 5_内部)	1998	22	—	22.1	
		内部防食(水処理棟_1系 初沈 5カラ 8_流出水路_内部)	1998	22	—	30.2	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
土木	水処理棟	内部防食 (水処理棟_1系 初沈6_内部)	1998	22	—	22.1	
		内部防食(水処理棟_1系 反応5_ステップ水路_内部)	1998	22	—	18.6	
	水処理棟	内部防食(水処理棟_1系 反応5_返送汚泥ビット_内部)	1998	22	—	0.8	
		内部防食(水処理棟_1系 反応6_ステップ水路_内部)	1998	22	—	18.6	
		内部防食(水処理棟_1系 反応6_返送汚泥ビット_内部)	1998	22	—	0.8	
		内部防食 (水処理棟_1系 初沈7_内部)	1998	22	—	22.1	
		内部防食 (水処理棟_1系 初沈8_内部)	1998	22	—	22.1	
		内部防食(水処理棟_1系 反応7_ステップ水路_内部)	1998	22	—	18.6	
		内部防食(水処理棟_1系 反応7_返送汚泥ビット_内部)	1998	22	—	0.8	
		内部防食(水処理棟_1系 反応8_ステップ水路_内部)	1998	22	—	18.6	
	汚泥処理棟	内部防食 (汚泥処理棟_返流 水槽内部)	1992	28	—	62.0	
		内部防食 (汚泥処理棟_No.1 濃縮汚 泥混合槽 _スクラムビット内部)	1992	28	—	5.4	
		内部防食 (汚泥処理棟_No.1 濃縮汚泥混合槽_ 返流水ビット内部)	1992	28	—	5.4	
		内部防食 (汚泥処理棟_No.2 濃縮汚泥混合槽_ スクラムビット内部)	1992	28	—	5.4	
		内部防食 (汚泥処理棟_No.2 濃縮汚 泥混合槽_ 返流水ビット内部)	1992	28	—	5.4	
	重力濃縮棟	内部防食 (重力濃縮タンク棟_ 排水槽_内部)	2005	15	—	37.9	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
土木	機械濃縮棟	内部防食(汚泥濃縮機棟_余剰汚泥貯留槽 1_内部)	1999	21	—	39.0	
		内部防食(汚泥濃縮機棟_余剰汚泥貯留槽 2_内部)	1999	21	—	39.0	
建築	消毒棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(塩素混和池棟_屋根)	1990	30	—	1.9	
	汚泥処理棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(汚泥処理棟_1F_搬出室)	1991	29	—	17.0	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(汚泥処理棟_2F_脱水機室)	1991	29	—	4.4	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(汚泥処理棟_屋根)	1991	29	—	17.6	
	管理棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(管理棟_2F_屋根)	1991	29	—	6.5	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(管理棟_PH_屋根)	1991	29	—	6.5	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(管理棟_RF_屋根)	1991	29	—	14.3	
	砂ろ過棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(砂ろ過棟_屋根)	1990	30	—	5.7	
	水処理棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(水処理棟(2系)_屋根)	2005	15	—	3.3	
	送風機棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(送風機棟_2F_給気口)	1991	29	—	0.6	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(送風機棟_2F_排気口)	1991	29	—	0.3	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(送風機棟_2F_搬入バルコニー)	1991	29	—	0.2	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(送風機棟_PH_屋根)	1991	29	—	0.3	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(送風機棟_RF_屋根)	1991	29	—	12.7	
	沈砂池ポンプ棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(沈砂池ポンプ棟(高段)_2F_コンベアー室)	2004	16	—	0.6	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(沈砂池ポンプ棟(高段)_2F_給気チャンバー(2))	2004	16	—	0.6	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
建築	沈砂池ポンプ棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(沈砂池ポンプ棟(高段)屋根)	2004	16	—	24.7	
		外装(屋根)(アスファルト防水保護コンクリート)(沈砂池ポンプ棟_屋根)	1991	29	—	19.1	
	沈砂池ポンプ棟	外装(床)(塗膜防水)(沈砂池ポンプ棟_共通_給気口A)	1991	29	—	0.1	
		外装(床)(塗膜防水)(沈砂池ポンプ棟_共通_給気口B)	1991	29	—	0.1	
		外装(床)(塗膜防水)(沈砂池ポンプ棟_共通_給気口C)	1991	29	—	0.1	
		外装(床)(塗膜防水)(沈砂池ポンプ棟_共通_排気口A)	1991	29	—	0.1	
		塗膜防水(沈砂池ポンプ棟(高段)_2F_給気ファンハブ(1))	2004	16	—	0.6	
		塗膜防水(沈砂池ポンプ棟(高段)_2F_排気ファンハブ(1))	2004	16	—	0.6	
	機械濃縮棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(機械濃縮棟_屋根)	1999	21	—	11.2	
	自家発電機棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(自家発電機棟_2F_ファンハウス)	1996	24	—	0.4	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(自家発電機棟_RF_屋根)	1996	24	—	7.1	
	重力濃縮棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(重力濃縮タンク棟_1F_搬出スペース)	2005	15	—	7.4	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(重力濃縮タンク棟_2F_ホッパ室)	2005	15	—	1.9	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(重力濃縮タンク棟_2F_屋根)	2005	15	—	3.5	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(重力濃縮タンク棟_PH_屋根)	2005	15	—	1.0	
		アスファルト防水(保護コンクリート)(重力濃縮タンク棟_RF_屋根)	2005	15	—	3.0	
	脱臭機棟	アスファルト防水(保護コンクリート)(脱臭機棟_屋根)	2005	15	—	2.5	
	重力濃縮棟	塗膜防水(重力濃縮タンク棟_2F_給気ファンハブ)	2005	15	—	0.2	

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
建築	重力濃縮棟	塗膜防水(重力濃縮タンク棟 _PH_排気ファンバー)	2005	15	—	0.2	
狩野川西部 浄化センター (小計)						3,237.2	

ii 中継ポンプ場

(1) 処理場・ポンプ場等の名称：夏梅木ポンプ場

(2) 合流・汚水・雨水の別：汚水

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	ポンプ場	一次消音器	1999	21	—	7.4	
		換気消音器 (排気消音器)	1999	21	—	14.9	
		給気消音器	1999	21	—	19.8	
		二次消音器	1999	21	—	7.4	
		地下燃料貯留槽	1999	21	—	9.9	
		燃料小出槽	1999	21	—	2.1	
		No.1 汚水流量計	1999	21	—	16.5	
		No.1 ポンプ井 水位計	1999	21	—	2.5	
		No.2 ポンプ井 水位計	1999	21	—	2.5	
		燃料タンク液位計	1999	21	—	4.2	
		流入渠水位計	1999	21	投込式	2.4	
蓄電池盤 (CVCF3)	1999	21	屋内ｽﾀﾝﾄﾞ形	22.0			

(3)			(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
工種	設置場所	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
電気	ポンプ場	始動用直流電源盤 (DC-G)	1999	21	屋内ｽﾀﾝﾄﾞ形	9.4	
		整流器盤 (CVCF3)	1999	21	屋内ｽﾀﾝﾄﾞ形	22.2	
		ｲﾝﾊﾞｰﾀ盤 (CVCF1)	1999	21	屋内ｽﾀﾝﾄﾞ形	22.0	
		ｼｰケンﾀ盤 (SQC-1)	1999	21	屋内閉鎖自立形	34.4	
土木	ポンプ場	B2Fポンプ井	1999	21		7.5	
夏梅木 ポンプ場 (小計)						207.1	
西部処理区 (合計)						3,955.3	

- 備考1) 改築を実施する施設のうち、② 1)において状態監視保全施設もしくは時間計画保全施設に分類したものを記載する。
- 備考2) 対象施設には、改築を行う部位、設備名称を記載する。記載にあたっては、「下水道施設の改築について（平成28年4月1日 下水道事業課長通知）」別表の中分類もしくは小分類を参考とする。
- 備考3) 「下水道施設の改築について（平成28年4月1日 下水道事業課長通知）」別表に定める年数を経過していない施設については、備考欄において、同通知に定める「特殊な環境により機能維持が困難となった場合等」の内容について、以下の該当する番号及び概要を記載する。
- ① 塩害など避けられない自然条件あるいは著しい腐食の発生など計画段階では想定しえない特殊な環境条件により機能維持が困難となった場合
 - ② 施設の運転に必要なハード、ソフト機器の製造が中止されるなど、施設維持に支障をきたす場合
 - ③ 省エネ機器の導入等により維持管理費の軽減が見込まれるなど、ライフサイクルコストの観点から改築することが経済的である場合及び地球温暖化対策の推進に関する法律(平成10年法律第117号)に規定する「地方公共団体実行計画」、エネルギーの使用の合理化に関する法律(昭和54年法律第49号)に規定する中長期的な計画等、地球温暖化対策に係る計画に位置付けられた場合
 - ④ 標準活性汚泥法その他これと同程度に下水を処理することができる方法より高度な処理方法により放流水質を向上させる場合
 - ⑤ 浸水に対する安全度を向上させる場合
 - ⑥ 下水道施設の耐震化を行う場合
 - ⑦ 合流式下水道を改善する場合
- 備考4) 改築事業の実施にあたっては、別途、詳細設計等において、効率的な手法等を検討すること。

④ スtockマネジメントの導入によるコスト縮減効果

【東部】

【管路施設】

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
約 190 百万円 / 年	100 年

【処理場・ポンプ場施設】

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
約 639 百万円 / 年	100 年

【西部】

【管路施設】

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
約 506 百万円 / 年	100 年

【処理場・ポンプ場施設】

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
約 895 百万円 / 年	100 年

【狩野川流域全体】

【管路施設】

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
約 696 百万円 / 年	100 年

【処理場・ポンプ場施設】

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
約 1,534 百万円 / 年	100 年

※標準耐用年数で改築するシナリオと最適シナリオを比較（3 処理区分とする。）

備考) 標準耐用年数で全てを改築した場合と比較して、②に基づき健全度・緊急度等や目標耐用年数を基本として改築を実施した場合のコスト縮減額を記載する。